

# 瀬野川を楽しむ会



— 子どもの水辺登録 —

# 瀬野川活動への思い

瀬野川を楽しむ会 代表 中村 幸春

2000年6月。  
息子たちのクラスに川遊びを呼びかけた。

あれから12年。  
とにかく諦めず、「エエか悪いか」だけで活動を継続しています。  
今、瀬野川を楽しむ会のサポートメンバー、  
クラーク記念国際高等学校、広島大学生物生産学部、  
広島市立大学情報科学部、海田町役場、保育所、  
学校関係者、地域住民沢山の人がサポートしてくれています。

活動のきっかけは瀬野川の河川工事。  
瀬野川には守らなければならない環境がある。

活動を始めたとき、河川保護など無謀な行動と思ったが、  
「ワシがやらなければ誰がやる」  
エエことか悪いことかを考えた。  
そのとき、間違いなくエエことだと決めた。

この活動は様々な障害が起きることも想定した。  
しかし心に決めたことは、この活動は息子達のため子供達のため。

当時、諫早湾干拓工事、長良川堤防など、  
様々な工事が環境保護団体と衝突していた。  
その行動はすべてデモでの活動。  
もっと話し合えばエエのに。

一人で始めた活動に、最初にサポートしてくれたのが、  
海田小学校の有崎教師だった。  
無我夢中で私ができることは何でもやってみた。  
通えるだけ瀬野川に入り、魚や水生昆虫を探していた。  
どんどん瀬野川のポテンシャルを認識した。  
これは間違いなく残さないといけないと身震いしていた。

河川工事は目前。  
測量も終わり、工事の資材を搬入していた。  
工事直前、初めての保護活動。  
海田町役場の三輪さん、海田小学校の有崎教諭と、  
保護しなければならないいけない周囲をロープで囲んだ。  
とうぜん、この行為は違反だ。

しかし、時間も目前だったため、  
意を表すためにはこれしか思いつかなかった。  
とにかく、瀬野川の自然を残すためには、  
住民に知ってもらわないとダメ。  
そのために、新聞社、TV局におねがいをした。  
すると、TSSの岩崎ディレクターが、  
海田町役場の当時の石原助役に説明してくれた。  
それから、行政も施工方法を変更してくれた。

このことが発端となり、  
私の思いが一人ひとりに伝わり、大きな呼びかけが始まり始めた。

このとき決めたことがある。

- \* 子どもたちの1人でもけが人が出たらこの活動はやめる
- \* 行政・教育機関の中傷はしない
- \* 全て、行動と会話で説得する
- \* デモはしない
- \* 協力を得る活動する
- \* 「全て子どもたちのため」
- \* いつか分かるときがある。
- \* 「しなければいけないこと」を今する。明日ではダメ！！
- \* 若いときは手足を動かし、  
年を取ったら知恵を使い、最後の最後にお金を使う
- \* 誹謗中傷はしない

皆さんに、この活動の参加を通し、  
やり方や呼びかけ方、私の思いが伝わればと思います。

社会はみんなが作るもの。  
子育ては家庭と地域が作るもの。  
幸せは一人一人が得ることができるもの。  
みんな平等で、幸せに過ごせる権利がある。  
同じことをしなくてもエエ。  
同じものを買わなくてもエエ。  
同じ考えでなくてもエエ。  
しかし、世界中、戦や争いがなく、  
自然が保たれていればみんな幸せに過ごせると思います。

# 瀬野川活動への思い

私の幼少時代は、今のようにゲームやテレビなどはありませんので、毎日のように、学校から帰ると、すぐに瀬野川に出かけ暗くなるまで魚を釣ったり、あさりやシャコを取って遊んだものです。当時は、年の離れた先輩たちとも一緒に遊んでいましたから、自然の素晴らしさや恐ろしさを学ぶと同時に、人とのコミュニケーション能力を自然な形で習得できたと思っています。ですから私にとって瀬野川は「遊びの場」であると同時に「学びの場」でもありました。学校での勉強も実体験に基づきながら学ぶと頭に入りやすいように、子どものうちは、友達と一緒に、また、しっかりと自然を相手に遊ぶべきであると考えています。

現在では、冬場を除き毎朝、河川敷を5kmほど歩いています。瀬野川の魅力は、県内有数の生物多様性を誇ることや子どもたちの環境学習の場として最適であることなどさまざまですが、そのほかに河川敷では毎日、大勢の人々が、ウォーキングやジョギングを楽しんでおり、健康づくりにも一役買っています。町では原則月1回「ふれあいウォーキング」を開催していますので、是非ご参加ください。（※詳細については毎月の「広報かいた」に掲載しています）  
町としては、これからも、より多くの方に瀬野川を好きになっていただき、皆さんと一緒になって瀬野川の持つ無限の可能性を引き出し、更なる魅力の向上とその活用を図っていきたくと考えています。

海田町長 山岡 寛次

クラーク記念国際高等学校は、平成15年度から自然・環境学習の一環として瀬野川での活動に参加しています。活動内容は、生物採取・清掃活動・ワイルドフラワーの種まきや草取り・園児や小学生との川遊び・ハゼ釣り大会など多彩な活動があります。その活動で得られることは単なる知識だけでなく、人間性を磨く場でもあります。なによりもこの活動にはたくさんの笑顔があります。

本校は、通信制の高等学校で生徒の半数以上が不登校経験者です。人間関係で躓いた子、ヤンチャをして集団から外れた子、精神的に落ち込んで無気力になった子など様々な生徒たちが大自然の中で人や生き物とふれあう。その中で、初めて生きた魚に触れた子、ハゼの唐揚げを食べて魚が食べられるようになった子、園児や小学生と活動する中で他を気遣う気持ちが芽生えた子など、生徒たちは瀬野川で多くの感動を持って帰ることができました。“もっと学びたいから大学に行く”“保育士になりたい”“魚釣りと調理を覚える”など将来の目標ができた生徒たちも出てきました。

瞬間的な出来事によって環境が壊れ、それを回復するには長い年月とたくさんのケアが必要です。人も同様です。ふとした拍子に傷つき、立ち直ることが難しい場合もあります。自然を知り、自然をいたわり、自然を中心に人の輪が広がる。“自然の恵みに感謝！”この言葉の深さを体感できた活動が「瀬野川を楽しむ会」の活動です。

クラーク記念国際高等学校 広島キャンパス  
西原 浩一郎

# 瀬野川活動への思い

瀬野川は、ダムや河口堰がない川の中では県下最大。魚の種類も豊富です。そして、広島湾を共有する太田川のさかなたちにとって、バックアップ河川（種を育てる川）としての役目を果たしています。

そんな貴重な川を守るためには、  
「瀬野川を舞台とし、実際にふれあう体験、現場教育が重要になると思っています。」  
教育者の立場からも提案します。  
また、癒やし効果を持つ魚を育む川をこれからも子供達と一緒に守ってほしいと思います。

広島大学大学院 生物圏科学研究科准教授  
海野 徹也

まさか自分が瀬野川に入って遊ぶとは思っていませんでした。  
もともと私は、海や山や川、自然の中で遊ぶことが大好きです。大学では、今はやりのIT、情報通信を教えています。世の中が効率的になればなるほど、自然の中で遊ぶ大切さを感じるこの頃です。

平日頃学生達と接していて、子供時代に、自然の中で遊んだ経験のある学生は、大学生活においても周りの人と協調し、物事に興味を持ち、手を動かし、生き活きしています。海や山や川で遊んでいると、予想外のこと、新たな発見、しんどいこと、思い通りにいかんこと・・・色々遭遇します。ゲームと違って簡単に“リセット”できません。自分で工夫したり、友達同士で教えあったり、知っている人に教えてもらったり・・・学校の教室ではできない貴重な体験が一杯。それが人間の基盤を創り、大人になって“生き抜く力”になります。その力は、子供時代にどれだけ自然の中で遊んだかに比例するように思います。

たまには教室から外に出て、自然から学ぼうよ。瀬野川が先生！

広島市立大学 情報科学研究科  
吉田 彰顕

# 昔の石崖



# 河川工事前





魚達の家が壊れてしまった



# 新工法を取り入れた 魚道と中州整備をアドバイス



# 天然石を組み合わせる護岸工事



# 排水路がよみがえる



# どんな工事方法よりも 浄化してくれる植物



## クレソン育てて川浄化

三次の北溝川で県内初

県備北地域事務所建設局は、三次市の市街地を流れ、生活排水などで水質汚染が目立つ北溝川で、ヤシ繊維やクレソンを利用した水質浄化対策を始めた。県内の川では初の試み。

対象は一九九二年からい固定。それぞれの口九九年にかけ親水地区とール表面に十二カ所開けして護岸を整備した二カたくほみに、約二十ヤに所の計約二百ヤシの育ったクレソンを植える。シの繊維を詰め、長さ クレソンは生活排水に約二分の俵状のロール二多く含まれるリンや窒素の吸収に優れる多年

県備北  
事務所  
リンや窒素を吸収



ヤシのマットのくほみにクレソンを植える作業員

合併研

山県

山県郡の合併の枠組みなどを討議している郡広域合併問題研究会（会長・前田達郎豊平町長）は、千代田町で予定していた六日の会合を急ぎよ三月に

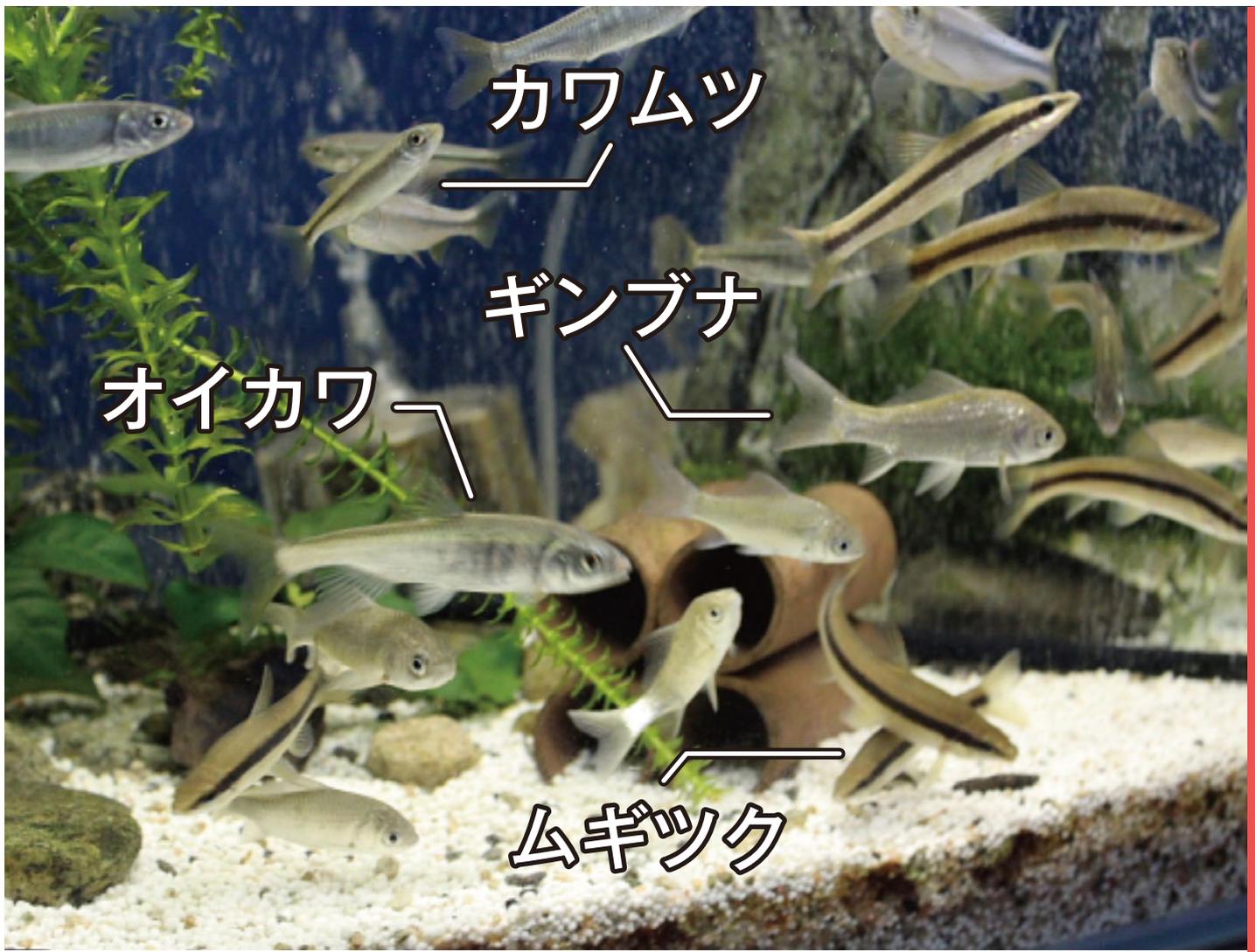
草。ヤシのロールが三ーと民たス流め施川約地 業を織條地つ五

水を浄化するゴカイの巣



水を浄化するガマ





カワムツ

ギンブナ

オイカワ

ムギツク



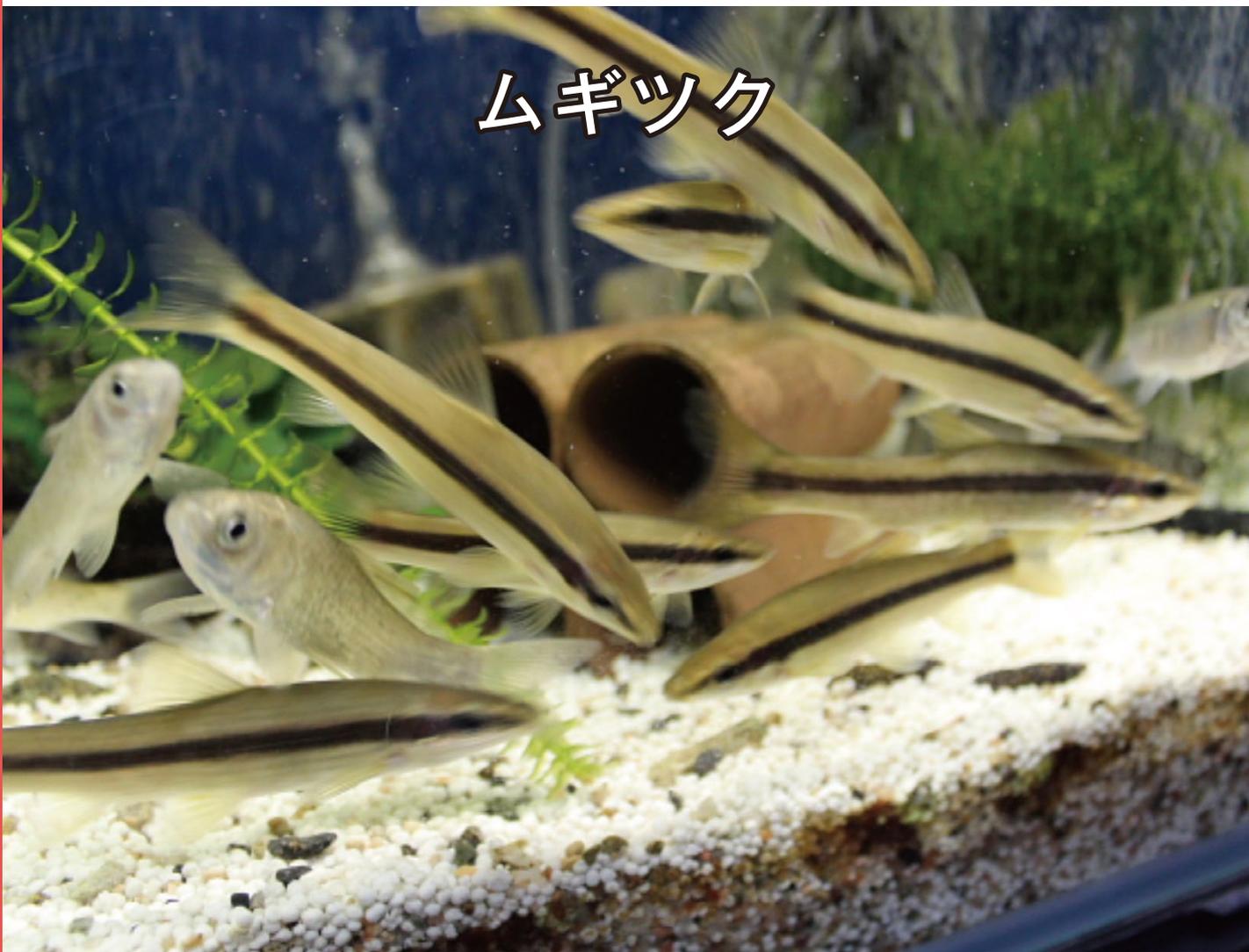
ギンブナ

コイの仲間

ギンブナ、オイカワ



ムギツク



コイの仲間

コイ



ニゴイ



コイの仲間

オイカワのオス



オイカワのオス



コイの仲間

カマツカ



カワムツ



コイの仲間

# ゴクラクハゼ

1980年以降見かけることができなくなった魚です



ハゼの仲間



スミウキゴリ



ハゼの仲間

戻ってきたウキゴリ





ヨシノボリ



チチブ

# 3年前からたくさん遡上してきた



ハゼの仲間

## ウキゴリ、スミウキゴリ遡上

中国新聞 2002年(平成14年)7月24日(水曜日)

広島都市

### 瀬野川に絶滅危く魚

安芸区から海田町を流れる瀬野川下流域で、広島市が絶滅危く種に指定しているハゼ科のスミウキゴリの稚魚が大量に生まれている。市が1998、99年に実施した調査では見つかっておらず、水生生物愛好家らは「行政側がふ化場所などを避けてしゅんせつ工事したおかげ」と喜んでいる。

海水と交わる河口から二、三年前の汽水域で多く見られる。体に黒い斑点があり、水中を上がったり下りたりするのが特徴。体長四、五センチに育っている。

### スミウキゴリ 稚魚が大量に



瀬野川下流で大量に見つかったスミウキゴリの稚魚

特に、地元の教育関係者や住民グループ「瀬野川を愛しむ会」などが、「魚のふ化場所」として保存を要望し、県がしゅんせつしなかった海田町盤原地区の中州で目立つ。メタカなどに交じって泳いでおり、「愛しむ会」の中村幸春代表(左)は「二、三年前後にはいるようだが、数年観察しているが、これだけの数は初めて」という。

### 愛好家「工事避けたおかげ」

安芸区中野の環境省環境カウンセラー保光雅文さん(右)は「瀬野川の水質は変わっておらず、工事しなかった影響が大きい」と分析している。

ハゼの仲間



ドンコ



# カジカ、アカザ捕獲

アカザ10年ぶり



アカザ(瀬野川市提供)  
清水で見つけたカジカ



44年ぶりカジカ

安芸区から瀬野川を流れる瀬野川で今夏、県と広島市が絶滅危く種に指定しているカジカとアカザの二種類の淡水魚が相次いで見つかった。瀬野川でのカジカ発見は四十四年ぶり。水生生物愛好家らは「川や、稚魚が育つ広島湾の環境が改善されているのたためではないか」と喜んでいる。

## 清流瀬野川 復活の証明

### 絶滅危く種発見

カジカは八月十六日 君(三)、三村(島田)三、河口から約二、の海は「元気がよく、かわい田田蟹類の高水で、住 かった。たぐらん見つか民グループ「瀬野川を築 るさう、川を汚さないよしむ全」の中村幸代表 うにしたい」という。七(念)が見つけた。網で草 日午後二時半から、海田の間を探っていたとる 公民館での瀬野川サミット掛かった。体長約四センチ、トで報告する。体や背びれなどの黒い模 瀬野川では、広島市が標と飛び出た自玉が特徴 絶滅危く種に指定してい的 瀬流にすむといわれ るスミウキゴリも見つ瀬野川では一九五八年に かったばかり。双方を 広島大が見つけて以来と 確認した淡水魚に詳しい。安芸市高校の内藤順一



アカザ発見の報告準備をする瀬野川東中科学部の部員たち

カジカの仲間

## 44年ぶりの捕獲カジカ



# カジカの水中映像



カ  
ジ  
カ  
の  
仲  
間

## 胸鰭が大きい



瀬野川のなまず62cm



鯰（なまず）



ナ  
マ  
ズ

ウナギ



ウナギ

ウナギの稚魚



瀬野川の天然鮎



瀬野川めだか



オヤニラミ



石どじょう



まはぜ



アンシロハゼ



汽水域の魚

シマイサキの稚魚



汽水域の魚

キビレチヌ



上がスズキ、下がホシスズキ



ホシスズキ



汽水域の魚

カダヤシ



ブルーギル



藻屑ガニ 28cm



甲  
殻  
類

藻屑ガニ (オス)



すじえび(メス)



甲  
殻  
類

ブツえび(メス)



井守



アカハライモリ



両生類

ハコネサンショウウオ



スッポンが住んでいる





草ガメ



草ガメのおなか

両生類

# 水生昆虫

はぐろトンボの幼虫



コオニヤンマの幼虫



ギンヤンマの幼虫



赤とんぼの幼虫



# 水生昆虫

川トンボの幼虫



モンキ豆ゲンゴロウ



コオイムシ



しまゲンゴロウ



# 水生昆虫

しまゲンゴロウ



ゲンゴロウ



ゲンゴロウの幼虫



ゲンゴロウかガムシの幼虫



# 水生昆虫

ガムシの成虫



水蠭螂



マツモムシ



タイコウチ  
成虫



幼虫

# 水生生物

サカマキガイ



カワニナ



瀬野川のシジミ



オオカナダモの花



# 瀬野川でシジミ取り



約 10kg のシジミが取れました



寒シジミ



11月の瀬野川でシジミ取り



これなんだ？





ヌートリアの子供

# ワイルドフラワー



この河川はわたし達が  
きれいにしています

瀬野川を楽しむ会

広島県アダプト制度  
ラブリバー認定番号  
**40**

海田町長  
広島県西部建設事務所長

# 瀬野川子どもの水辺

広島県 安芸郡海田町 瀬野川水系 瀬野川  
平成 22 年 11 月登録

## 【子どもの水辺 PR ポイント】

- (1)自動車での利用はもちろんのこと、JR 海田市駅から徒歩 15 分の距離にあり、ふれあいバスの利用も可能であり、交通の利便性に優れている。
- (2)治水ダムがなく、水質は良好で、広島県内の絶滅危惧種なども生息しており、稀有の生物多様性を誇っている。
- (3)水深が浅く、遊歩道の整備により利用者の安全性に配慮しているほか、周辺にはトイレ 2カ所、テラスなどの休憩施設や公園を整備しており、快適性を確保している。

以上の 3 点から子どもの自然学習・環境学習に極めて適した条件を備えており、近隣市町だけでなく県内全域を対象とした最適な学習モデル河川である。

## 【主な学習メニュー】

- ・蛍の餌を確保しながら支流に放流している。
- ・生物の観察
- ・治水工事のアドバイス
- ・河川内のゴミ拾い
- ・河川敷のワイルドフラワー植栽 2010 年 10 月 13 日実施

## 【注意点等】

- ※遊歩道に面しているので自転車などの往来に注意
- ※草むらでの怪我、入水時滑りやすいので注意

## 【主な活動団体】

瀬野川を楽しむ会

## 【活動している主な学校】

海田町立保育所、海田町立海田小学校、海田町立海田南小学校、  
クラーク国際記念高等学校、広島大学生物生産学科

海田町には瀬野川という素晴らしい川があります。広島県内では 8 番目の規模。しかし、ダムや河口堰が施していない河川では県内最大。2000 年から海田町は生物と共存出来る工法を取り組んで来ました。これにより、絶滅危惧種の保護も継続できています。

治水、利水を創意工夫して、多くの生き物と人が共存できる環境を残そうとしています。壊すことは一瞬でできますが、残す事はつながりが必要です。一時の思いつきだけでは何も残せません。未来に続くように、人にも生物にも最適な環境を残す事がいつの時代でも大切と考えています。これから生まれてくる、命に未来を託せるのは私たちの思いと行動です。

学校という教育現場で少しでも瀬野川探索会が継続され思いがつながることを願っています。

瀬野川図鑑

瀬野川を楽しむ会 中村幸春

この図鑑は、社団法人 瀬戸内海環境保全協会のサポートで作成できました。